

五千人の給食と弟子集団の縮小

□これまでのハイライトからのつながり

二回目のメシア的奇跡と議会調査の判定

1回目のメシア的奇跡により
議会調査が開始した。

- (1) 二回目のメシア的奇跡：口をきけなくする悪霊をイエスが追い出した
- (2) 議会調査の判定：「この人が悪霊どもを追い出しているのは、ただ悪霊どものかしらベルゼブルによることだ。」 = 【イエスはメシアではない】という判定
- (3) 聖霊を冒瀆する罪：イエスが聖霊の力によってメシアとしてのわざを行っているのを見ていながら、それを悪霊のかしらの力によっていると拒否するのは聖霊を冒瀆すること
- (4) イエスの宣教活動における変化：指導者層による拒否を受けてから3つの変化
 - ① 奇跡の目的と仕方：【メシアとしての権威を示すために。公然と、受ける側の信仰を問わず】 → 《弟子たちの訓練のため。公衆の面前では行わず、受ける側の信仰を確認してから。公然と行う奇跡は「ヨナのしるし」のみ》
 - ② 教え方：明確な教えから、たとえ話による教えへ。解説は弟子たちにのみ。
 - ③ 神の国のプログラム：「メシアの王国」は将来の世代に延期され、**「奥義としての神の国」の時代に入った。**

神の国のたとえ話

メシア拒否を受けてすぐ、その当日に語られた一連の9つのたとえ話

「奥義としての神の国」の時代的特徴を弟子たちは教えられて、それに対する応答

イエス：「あなたがたは、これらのことがみな分かりましたか。」

弟子たち：彼らは「はい」と言った。(マタイ 13:51)

三回目のメシア的奇跡と十二弟子の派遣

理解はまだ不十分だが、
彼らが理解した範囲で

三回目のメシア的奇跡：指導者層による拒否の姿勢を再確認

十二弟子の派遣：指導者層による拒否を受けて神の国のプログラムが変わったことをこれまで宣教した各地の信者たちに知らせた

五千人の給食と弟子集団の縮小

十二弟子が帰還。休息のため異邦人地域へ退避。
しかし群衆が追いかけてきた。彼らへの給食の奇跡に続いて、弟子集団が縮小した。

□アウトライン

- I. **五千人の給食**
- II. **ガリラヤの王擁立事件**
- III. **弟子集団の縮小**

I. **五千人の給食**

1. 紀元29年の春、過越の祭りが近づいていた（ヨハネ6：4）。イエスの公生涯においては3度目の過越の祭り。メシア宣言からは2年、そして十字架の死までは1年。
2. 十二弟子が派遣任務を終えて、拠点に帰って来た（マコ6：30、ルカ9：10a）
3. イエスは十二弟子を連れて、休息をとらせようと異邦人地域へ退避（リトリート）のため、舟で移動。（マタ14：13a、マコ6：31～32、ルカ9：10b、ヨハ6：1）
4. しかし、ユダヤ人の群衆（ガリラヤ地方の人々）はイエスたちを追いかけてきた。ガリラヤ湖を渡るイエス一行の舟は、陸地からよく見えたからであった。（マタ14：13b、マコ6：33、ルカ9：11a、ヨハ6：2）
5. イエス一行は上陸すると、近くの山に登った（ヨハ6：3）。その山よりもさらに高い山の方を見上げると、山の縁沿いの道を伝ってユダヤ人の群衆がやって来るのが見えた。イエスは弟子のピリポに、群衆のためのパンをどこから入手しようかと尋ねた。ピリポはその地域の出身だった（ヨハ1：44）ので、パンを売ってくれるような市場や家は近くにないことをよく知っていたが、仮にあったとしてもこの人数ではとてもパンを買う資金が足りないと判断した。

ヨハ6：5～7 イエスは目を上げて、大勢の群衆がご自分の方に来るのを見て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人たちに食べさせようか。」イエスがこう言われたのは、**ピリポを試すためであり、ご自分が何をしようとしているのかを、知っておられた。**ピリポはイエスに答えた。「一人ひとりが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」
6. イエスは、群衆を迎え入れ、彼らの中の病人をいやし、群衆に神の国について多くのことを教えた（マタ14：14、マコ6：34、ルカ9：11b）

7. 夕方に近づいた。群衆も疲れていた。弟子たちはイエスに、食事をこちらで準備するのは無理なので、群衆を解散させてくださいと進言した（マタ 14：15、マコ 6：35～36、ルカ 9：12）
8. イエスは、十二弟子に命じて、何か食べる物を群衆に与えるようにと、指示した（マタ 14：16、マコ 6：37～38、ルカ 9：13a）
9. アンデレは大麦のパン5つと干し魚2尾を持っている少年をイエスのところに連れて来た（マタ 14：17～18、マコ 6：38a、ルカ 9：13～14a、ヨハ 6：8～9）

ヨハ 6：8～9 弟子の一人、シモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。
「ここに、大麦のパン五つと、魚二匹を持っている少年がいます。でも、こんなに大勢の人々では、それが何になるでしょう。」

10. イエスは、十二弟子に命じて、群衆を草地の上に座らせた（マタ 14：19、マコ 6：39～41、ルカ 9：14b～16、ヨハ 6：10～11）

ヨハ 6：10～11 イエスは言われた。「人々を座らせなさい。」その場所には草がたくさんあったので、男たちは座った。その数はおよそ五千人であった。そうして、イエスはパンを取り、感謝の祈りをささげてから、座っている人たちに分け与えられた。魚も同じようにして、彼らが望むだけ与えられた。

11. 群衆は満ち足りるほどに食べた（マタ 14：20～21、マコ 6：42～44、ルカ 9：17、ヨハ 6：12～13）

ヨハ 6：12～13 彼らが十分食べたとき、イエスは弟子たちに言われた。「一つも無駄にならないように、余ったパン切れを集めなさい。」そこで彼らが集めると、大麦のパン五つを食べて余ったパン切れで、十二のかごがいっぱいになった。

II. ガリラヤの王擁立事件

1. 給食のあと、イエスと弟子たちは湖畔に下りた。一方、群衆はイエスを王にしようとした。エルサレムの議会はすでにイエスをメシアではないと拒否しているので、イスラエル全体の王というわけではない。ガリラヤ地方の王にしようとしたのである。イエスはこれを知ると、弟子たちだけを舟に乗せて出発させ、ご自分は一人だけで再び山に登った。祈るためであった。（ヨハネ 6：14～15）

ヨハネ 6 : 14~15 人々はイエスがなさったしるしを見て、「まことにこの方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。イエスは、人々がやって来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、再びただ一人で山に退かれた。

2. 弟子たちだけを乗せた舟は、強風のため湖が荒れ、一晩中、風と波にもまれた。弟子たちはだれかが湖上を歩いて舟に近づいて来るのを見て恐れた。それはイエスであった。ペテロも湖上を歩く体験をさせていただいた。(ヨハネ 6 : 16~21、マタ 14 : 22~33、マコ 6 : 45~51)
3. イエスをガリラヤの王に擁立しようとした人々は、翌日、対岸から来た舟に乗り込み、イエスを捜しにカペナウムに向かった。人々がカペナウムの会堂でイエスを見つけると、イエスは彼らに「いのちのパン」の話をした(ヨハネ 6 : 22~59)

III. 弟子集団の縮小

1. カペナウムの会堂でイエスが人々に語った「いのちのパン」、結論は、「人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。**わたし**の肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます」(ヨハネ 6 : 53~54)。この表現が、弟子集団の中に動揺を引き起こした。

ヨハネ 6 : 60 これを聞いて、弟子たちのうちの多くの者が言った。「これはひどい話だ。だれが聞いていられるだろうか。」

2. しかしイエスは、弟子たちがこの話について、小声で文句を言っているのを知って、彼らに言われた。

ヨハネ 6 : 61b~63 「わたしの話があなたがたをつまづかせるのか。それなら、人の子がかつていたところに上るのを見たら、どうなるのか。いのちを与えるのは、御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話してきたことばは、霊であり、またいのちです。

- **肉を食べる**・・・人は自分の身体的いのちを養うために動物の肉を食べるが、霊的ないのちを養うのは、霊である。よって、イエスの肉を食べるとは、イエスのことばを自分の内側に取り込むこと、つまり信じること。
- **血を飲む**・・・「肉のいのちは血の中にある」(レビ 17 : 11)、血はいのちそのものである。ゆえに、血を食べたり飲んだりしてはならない(レビ 17 : 12~14、創 9 : 4)。弟子たちの多くの者がつまづいたのは、この禁止

命令に違反していると感じたからである。しかし、イエスのことばは、霊でありいのちである。血を飲むとは、いのちを飲む、すなわちイエスのことばを自分の内側に取り込むこと、イエスのことばを信じる、ということ。

ヨハネ6：64a けれども、あなたがたの中に信じない者たちがいます。」

3. 弟子集団の中には、信者でない人たちもいた。彼らは離れて行った。

ヨハネ6：64b～66 信じない者たちがだれか、ご自分を裏切る者がだれか、イエスは初めから知っておられたのである。そしてイエスは言われた。「ですから、わたしはあなたがたに、『父が与えてくださらないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできない』(44節)と言ったのです。」こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去り、もはやイエスとともに歩もうとはしなくなった。

4. イエスは、十二弟子にあなたがたも離れて行きたいかと尋ねた。ペテロは答えた。

ヨハネ6：68～69 すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ、私たちはだれのところに行けるでしょうか。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。私たちは、あなたが神の聖者であると信じ、また知っています。」

5. イエスは、十二弟子の中の一人は悪魔だと言った。ただし、それがユダであるとか、悪魔と呼ぶのはどういう意味なのか、といったことは一切明らかにしなかった。

ヨハネ6：70～71 イエスは彼らに答えられた。「わたしがあなたがた十二人を選んだのではありませんか。しかし、あなたがたのうちの一人は悪魔です。」イエスはイスカリオテのシモンの子ユダのことを言われたのであった。このユダは十二人の一人であったが、イエスを裏切ろうとしていた。

①「ピリポを試すため」・・・試す=その人の心の内を表に出させる→ピリポの心の内は? : 参考 ヨハ1：43～46、マタ10：2～4、ヨハ12：20～28、14：8～9

②イエスはなぜイスカリオテのユダを十二使徒の一人として選んだのだろうか?

裏切り者の役割を負わせるためでは、あり得ない。なぜなら神は人を悪に誘惑することはなさない(ヤコブ1：13) : 参考 ヨハネ13：18、詩41：9、ヨハネ12：6

□弟子集団が縮小され、いよいよこれから弟子訓練が本格化する。異邦人地域へのリトリートは、今回のベツサイダのあと、さらに、ツロとシドン、デカポリス、そして、ピリポ・カイサリアへと、計4回続く。次回のハイライトは、ピリポ・カイサリアで起きた出来事、「ペテロの信仰告白とイエスの変貌」である。